地域情報冊子に見る北九州市内の観光資源とその分布特性

片岡　寛之（北九州市立大学都市政策研究所　准教授）

Ⅰ．はじめに

１．研究の背景と目的

2000 年 10 月に、日本経団連によって「21 世紀のわが国の観光のあり方に関する提言」が発表されて以来、わが国では観光振興に向けた取り組みへの関心が急速に高まりを見せている。政府の取り組みとしては、2002 年２月の施政方針演説において小泉総理が歴代総理で初めて観光振興に言及したことを皮切りに、2003 年１月には小泉総理によって「訪日外国人旅行者倍増（1000 万人）計画（2010 年目標）」が打ち出され、観光立国懇談会報告書「住んでよし、訪れてよしの国づくり」(2003 年 4 月)、観光立国推進戦略会議報告書「国際競争力のある観光立国の推進」(2004 年 11 月）の公表を経て、2007 年１月には「観光立国推進基本法」が施行され、同年６月には「観光立国推進基本計画」(計画期間：５年）が策定されるなど、国家戦略として「観光立国」が明確に位置づけられたといえる。

以上のような背景を踏まえ、本プロジェクトでは、全国的にも注目を浴びている観光振興を、広い意味で集客と捉え、近年ビジターズインダストリー（集客産業）の振興に力を入れている北九州市において、集客型の都市づくりを行うための調査研究を進めてきた。昨年度の調査研究において、筆者は全国主要 54 都市を対象とした集客関連指標の分析に基づく都市の類型化を行い、その結果から、本市において集客力の向上を図る上での重要課題が、都市アピールであることを明らかにした。したがって、次のステップとしては、本市にはどれくらいの観光資源があり、それらがどのように分布しているか、またそれらの情報がどの程度発信され、認知されていているかを把握した上で、効率的かつ効果的な都市アピールのための戦略を立てていく必要がある。

ただし、単に観光地化させることだけは避けるべきである。なぜなら、多くの観光客は、単に観光資源に触れるだけでなく、その土地の風土に触れること、その土地での生活を体験すること、地元の人と接してその土地柄を肌で感じること等の非日常的な経験に対して満足感を得ているからである。つまり、観光振興というと、受け入れ側は、観光関連の要素を充実させることばかりに囚われがちであるが、その日常を充実させることこそが、観光客をはじめとする来街者の満足度を高める上で重要になってくるのではないかと考えられる。したがって、集客力を向上させるためには、日常生活と観光の両面が相互に作用するような取り組みと、そのアピールが必要になると考えられる。

以上を踏まえ、本研究では、観光資源に関する情報源を観光パンフレット及び地域情報誌に限定した上で、第一に、北九州市内の観光資源に関する現状把握を行うこと、第二に、生活者の視点から市域の類型化を行うこと、第三に、類型化された市域別に観光資源の分布状況を把握し、集客力向上のための方策を検討することを目的とする。

Ⅱ．北九州市内の観光資源に関する現状把握

1．北九州市内における観光資源の抽出

北九州市内にはどのような観光資源があり、それらの情報がどの程度発信されているかを把握するために、まず、表 1 に示すような、区役所等の公共機関で入手可能な観光パンフレット及び市販の地域情報誌に掲載されている情報の中から 873 例（→参考資料に一覧を掲載）を観光資源として抽出した。次に、抽出した観光資源の特徴によって、それらを 12 タイプ（①歴史、②港町、③産業、④文芸、⑤自然、⑥動植物、⑦レジャー、⑧景観、⑨祭り、⑩交通、⑪食、⑫その他）に分類した。

その結果、観光資源の分類については、「①歴史（257 件／29.5%）」が圧倒的に多く、「③産業（110 件／12.6%）」、「⑨祭り（82 件／9.4%）」、「⑤自然（80 件／9.2%）」などがそれに次いで多く、場所については、門司区（225 件／25.8%）が最も多く、小倉北区（166 件／19.0%）や八幡西区（137 件／15.7%）などがそれに次いで多いことが分かった。

表1　観光パンフレット等の一覧

名称	発行年月日	発行者	観光資源掲載数
43施設のパンフレット	－	各施設	43
北九州市観光案内パンフレット	不明	北九州市観光課	64
北九州市観光ガイドブック	不明	北九州市観光協会	103
北九州市市政概要2007	H19.3	北九州市広報室	60
北九州市レジャーガイド	H6.3	北九州市観光課	270
たびなび北九州市観光特選ロードマップ	H19.3	北九州市観光課	54
北九州市ウォーキングガイドブック	H18.9	北九州青年会議所道紡ぎ推進室	62
観光指南書	H15.6	北九州市観光協会	29
産業観光	不明	北九州市観光課	74
北九州市修学旅行体験学習プログラムガイドブック	不明	北九州市観光課	73
北九州食の歳時記	不明	北九州市農林水産部	21
グルメ＆ナイトマップ	不明	北九州市観光協会	12
門司港レトロガイドマップ	H19.8	北九州市観光協会	27
門司港レトロ散策マップ	H19.10	門司港駅観光案内所	13
浪漫の旅・門司堪能ガイドマップ	H18.11	門司区役所まちづくり推進課	83
海峡ウォーカー	H19.6	関門海峡観光推進協議会	47
門司タウンガイドブック	H13.3	門司区役所まちづくり推進課	103
テクテク史跡めぐり	不明	小倉北区役所まちづくり推進課	58
小倉城下町散策ガイドマップ	不明	北九州市観光課	49
足立山麓散策マップ	不明	小倉北区役所まちづくり推進課	6
小倉南まるごとガイドブック	不明	小倉南区役所まちづくり推進課	47
平尾台観光マップ	不明	平尾台観光振興協議会	7
小倉南区中谷地区ふるさとウォーキングマップ	不明	中谷ウォーキング実行委員会	14
若松ガイドブック	H18	若松区役所まちづくり推進課	56
若松バンド	不明	若松南海岸通りの歴史と景観を考える会	8
皿倉山展望マップ	H18.3	八幡東区役所まちづくり推進課	14
道原・河内サイクリングロード	不明	北九州市建設局管理課	2
河内散策マップ	不明	河内湯の里振興会	7
長崎街道を歩く	不明	八幡西区役所まちづくり推進課	53
長崎街道木屋瀬宿	不明	北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館	9
黒崎歩きやすさマップ（歴史編）	H18.12	国土交通省北九州国道事務所交通対策課	24
黒崎歩きやすさマップ（現代編）	H18.12	国土交通省北九州国道事務所交通対策課	25
八幡西区南部おでかけマップ	不明	八幡西区役所まちづくり推進課	22
香月の郷・藤マップ	不明	八幡西区役所まちづくり推進課	8
折尾史跡めぐり	不明	八幡西区役所まちづくり推進課	19
とばたマップ	不明	戸畑区役所まちづくり推進課	15
北九州市Walker	H18.11	㈱角川書店	147
るるぶ情報版福岡	H19.10	JTBパブリッシング	36
まっぷるマガジン福岡　門司港レトロ・大宰府	H19.10	昭文社	45
美味本	H18.11	ゼンリン	3

2. 観光資源のアピール度について

ここでは、観光資源のアピール度の優劣が、地域情報冊子への掲載頻度、地域情報冊子自体の訴求力という２つの要因によって決まるという仮定のもと、表２に示すような判定基準によって、前節で抽出された観光資源のアピール度を４段階に分類した。

ランク別の件数を表２に示しているが、アピール度の最も高いランクＳに分類されたのは 42 件で、全体の 4.8%を占めるにとどまった。また、比較的アピール度が高いと考えられるランクＢ以上に分類されたものを合わせると 167 件となり、全体の約２割を占めていることが分かった。

表2　アピール度の判定基準

ランク	*判定基準*	*件数*
S	情報源とした市販の地域情報誌3冊のうち、2冊以上に掲載されているもの	42
A	情報源としたパンフレットや地域情報誌のうち、5冊以上に掲載されているもの	46
B	情報源としたパンフレットや地域情報誌のうち、3～4冊に掲載されており、 かつ、北九州市全体を対象とした冊子に1冊以上掲載されているもの	79
C	上記S、A、B以外のもの	705

3. 観光資源の集計結果について

ここでは、観光資源に関する３つの属性（観光資源の分類、アピール度、場所）の間でそれぞれクロス集計を行った。集計結果を表３～５に示す。

まず、観光資源の分類とアピール度によるクロス集計結果（表３）を見てみると、「②港町」に関するものが、Ｓ及びＡランクに分類されるケースが多いことが分かる。そのほとんどは、門司港レトロや関門海峡に関連するものであり、積極的に情報発信を行っている状況を反映した結果だといえる。その一方で、最も資源の多い「①歴史」のほとんどがＣランクであり、その中には城下町に関するものや長崎街道に関するものも多く含まれていることから、パンフレット等の紙媒体に限った話ではあるが、今後は地域の歴史に関する情報発信について、もう少し力を入れるべきだと考えられる。

次に、場所とアピール度によるクロス集計結果（表４）を見てみると、Ｓランクに分類されたものの６割以上が門司区と小倉北区にあることから、現状では両区が本市の観光の牽引役となっていることが分かる。また、自区内の全資源に占めるＳ及びＡランクの割合について見てみると、八幡東区（15.3%）や門司区（13.3%）において比率が高いのに対して、八幡西区（3.6%）における比率が特に低いことから、行政区によって観光資源のＰＲ状況にかなり差があるといえる。

最後に、観光資源の分類と場所によるクロス集計結果（表５）からは、門司区では「①歴史」と「②港町」、小倉北区では「①歴史」と「③産業」、小倉南区では「⑤自然」と「⑨祭り」、若

松区では「②港町」と「⑤自然」、八幡東区では「③産業」と「⑤自然」、八幡西区では「①歴史」と「⑨祭り」、戸畑区では「④文芸」と「⑪食」という分野のＰＲに力が入れられている、もしくは、その分野に特徴があると読み取れる。

表3　観光資源数のクロス集計結果（観光資源の分類　－　アピール度）

		アピール度				計
		S	A	B	C	
観光資源の分類	①歴史	4	4	20	229	257
	②港町	10	12	4	33	59
	③産業	3	2	8	96	109
	④文芸	4	4	5	38	51
	⑤自然	5	8	12	55	80
	⑥動植物	1	0	2	17	20
	⑦レジャー	4	1	5	61	71
	⑧景観	2	1	3	41	47
	⑨祭り	2	5	8	67	82
	⑩交通	4	2	1	6	13
	⑪食	3	7	5	52	67
	⑫その他	0	0	6	10	16
計		42	46	79	705	872

表4　観光資源数のクロス集計結果（行政区　－　アピール度）

		アピール度				計
		S	A	B	C	
行政区	門司区	17	13	18	178	226
	小倉北区	10	4	13	139	166
	小倉南区	4	5	13	93	115
	若松区	1	10	15	60	86
	八幡東区	6	5	6	55	72
	八幡西区	1	4	11	121	137
	戸畑区	1	1	2	30	34
	特定不可	2	4	1	29	36
計		42	46	79	705	872

表5　観光資源数のクロス集計結果（観光資源の分類　－　行政区）

		行政区								計
		門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区	特定不可	
観光資源の分類	①歴史	65	77	19	10	8	71	7	0	257
	②港町	44	1	1	13	0	0	0	0	59
	③産業	26	26	8	14	16	10	7	2	109
	④文芸	10	13	1	5	8	1	3	10	51
	⑤自然	13	5	27	14	13	5	2	1	80
	⑥動植物	5	1	7	3	1	2	1	0	20
	⑦レジャー	14	15	9	5	11	12	5	0	71
	⑧景観	10	5	9	3	4	13	3	0	47
	⑨祭り	14	11	19	11	4	17	3	3	82
	⑩交通	9	1	0	0	1	0	1	1	13
	⑪食	14	6	14	6	2	6	2	17	67
	⑫その他	2	5	1	2	4	0	0	2	16
計		226	166	115	86	72	137	34	36	872

4. 観光資源の分布状況の把握

ここでは、収集した観光資源のうち、その立地場所もしくは開催場所等の住所情報が、町丁目番地まで特定可能であった 599 件を対象としてポイントデータを作成し、観光資源の分布状況を把握する。ポイントデータの作成には、住所データを入力することによって街区精度での座標値を抽出することができる、「ＪＮＳ住所認識システム」（提供元：国土交通省国土計画局）を利用した。図１に観光資源の分布状況を示す。

観光資源は概ね市全域にわたって分布しているようであるが、その多くは市街化区域内に分布していることが分かる。その中でも特に、門司港地区、小倉地区、黒崎都心地区、木屋瀬地区において高い集積が見られることが特徴的である。

また、アピール度のランキング別に見てみると、Ｓランクのものは、門司港地区、小倉都心地区、東田地区、平尾台地区などに集積しており、観光資源の集積度が高かった黒崎副都心地区や木屋瀬地区には、Ｓランクのものがほとんどなく、Ｂランク以下が多くを占めている状況にある。

以上のことから、門司港地区や小倉都心地区では、アピール度の高いものにそれ以外の豊富な観光資源を関連づけることで、より高い効果が得られることが予想される。その一方で、黒崎副都心地区や木屋瀬地区では、豊富な観光資源を抱えているにも関わらず、それらが活かされていない状況にあるため、より積極的なアピールが求められる。

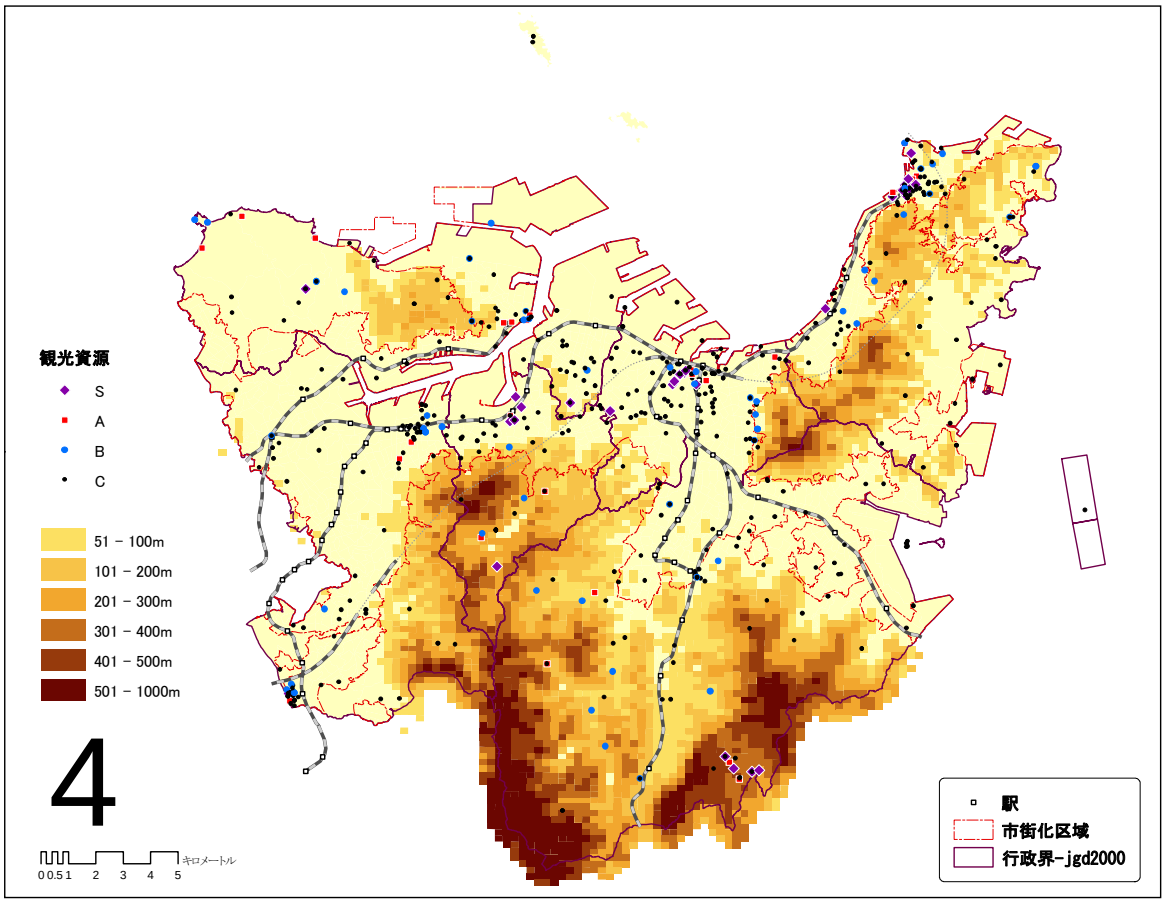


図１　観光資源の分布状況

Ⅲ. 生活者の視点に基づく市域の類型化

集客力を向上させるためには、集客関連要素ばかりに着目した取り組みだけではなく、それと同時に、その受け皿となる地域の生活環境を向上させる取り組みが求められる。そして、両者が相互作用することによって、生活者と来街者双方の満足度が高まり、持続性の高い集客型の都市づくりが可能になると考えられる。したがって、生活者の視点からも市域の特性を捉えてみる必要がある。

ここでは、暮らしを支える施設の立地状況や、公共交通の利便性など、生活者の視点から市域の現状を把握し、それに基づいて市域の類型化を行う。

1. 生活支援施設の立地状況

市域特性を把握するために、まず、日常生活を送る上で必要性が高いと考えられる、34分野の施設を生活支援施設（表６）と定義し、施設データの収集を行った。次に、図２に示すような生活支援施設のポイントデータを作成した。さらに、その立地状況を250mメッシュ単位で集計し、全市的に見てどのような場所に施設が集積していて、どのような場所で施設が不足しているか、現状把握を試みた。具体的には、図３に示すように、250mメッシュ内に施設が立地する場合には１施設を１とカウントし､当該メッシュから300m以内に立地する場合には１施設を0.5とカウントして、メッシュごとにカウント数の合計値を計算した。250mメッシュによる集計結果を図４に示す。

集計結果を見てみると、生活支援施設の大部分は市街化区域内に立地しており、特に軌道系沿線や幹線道路沿道などの都市軸に沿って多くの施設が立地している。その中でも特に、小倉都心に位置するモノレール平和通駅を中心とした約1km四方のエリア、黒崎副都心に位置するJR黒崎駅南側の約750m四方のエリアの２カ所に、生活支援施設の高い集積が見られることが特徴的である。その一方で、市街化調整区域においては、生活支援施設の集積がほとんど見られず、バス路線等の沿線に散在している程度であることが分かる。

また、ある程度まとまった範囲で生活支援施設が集積している地区として、門司港、門司、戸畑、若松、八幡、折尾、下曽根などの政策上の拠点に加え、三萩野から片野、砂津から大畠などの小倉都心外縁部、木町・清水・真鶴地区、守恒・徳力地区、中井地区、中央町・春の町地区、穴生・鉄王地区、三ヶ森地区などが挙げられる。

さらに、集積地の連続性について見てみると、小倉都心を中心として、黒崎、戸畑、徳力方面にわたって施設の集積度の高い地区が連続していることが分かる。しかし、その一方で、若松区や門司区、八幡西区の西部、小倉南区の南東部では、施設の集積地に連続性は見られず、比較的分散している状況にある。

表6　生活支援施設一覧

表：生活支援施設一覧(合計：22,350)

①守る	2,121	②支える・育てる	1,722	③暮らす・使う	18,507
①-1医療	1,914	②-1福祉	426	③-1商業・消費	13,406
111 総合病院	22	211 福祉施設	117	311 商店街・市場	201
112 内科	358	212 老人福祉施設	309	312 スーパー	205
113 外科	241	②-2教育・子育て	1,049	313 大型店テナント	470
114 小児科	119	221 幼稚園・保育園等	346	314 飲食店	4,818
115 歯科	684	222 児童館	40	315 余暇関連	591
116 産婦人科	78	223 小学校	135	316 居酒屋・スナック	2,481
117 針灸・整体	412	224 中学校	67	317 その他小売店	4,640
①-2治安	207	225 図書館・美術館等	30	③-2利便施設	4,042
121 警察署・交番	111	226 各種専門学校	431	321 銀行等	204
122 消防署	96	②-3地域活動	247	322 郵便局	160
		231 市民センター等	33	323 コンビニ	296
		232 公民館・集会所	214	324 美容・理容	2,466
				325 クリーニング	537
				326 サービス	379
				③-3健康関連	1,059
				331 薬局等	859
				332 温浴施設等	200

※下線付きの施設データは市役所提供、その他はTelPointデータを利用

※備考

221：幼稚園、保育所、保育園、224：小学校、小中学校、225：図書館、美術館、博物館、科学館、226：子供向け語学教室・音楽教室等

231：旧市民福祉センター、区役所、311：商店街組合等の事務所、313：デパート、HC、大型雑貨店のテナント

315：ボーリング場、映画館、ゲームセンター、パチンコ、麻雀、公営ギャンブル、カラオケ、テーマパーク、動植物園、レンタル　等

317：ディスカウントショップ、スポーツ用品、書店、家電、玩具、パン、眼鏡、化粧品、酒、花、惣菜、家具、衣料、靴　等

326：携帯販売、カメラ・DPE　等

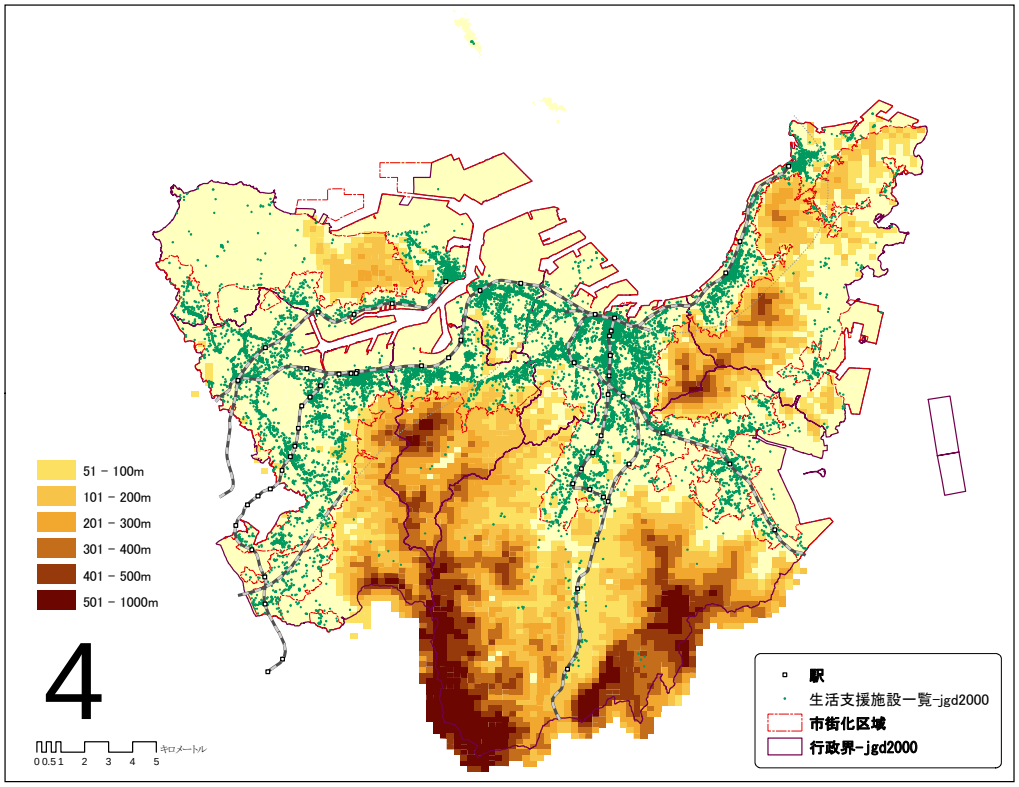


図2　生活支援施設の分布状況

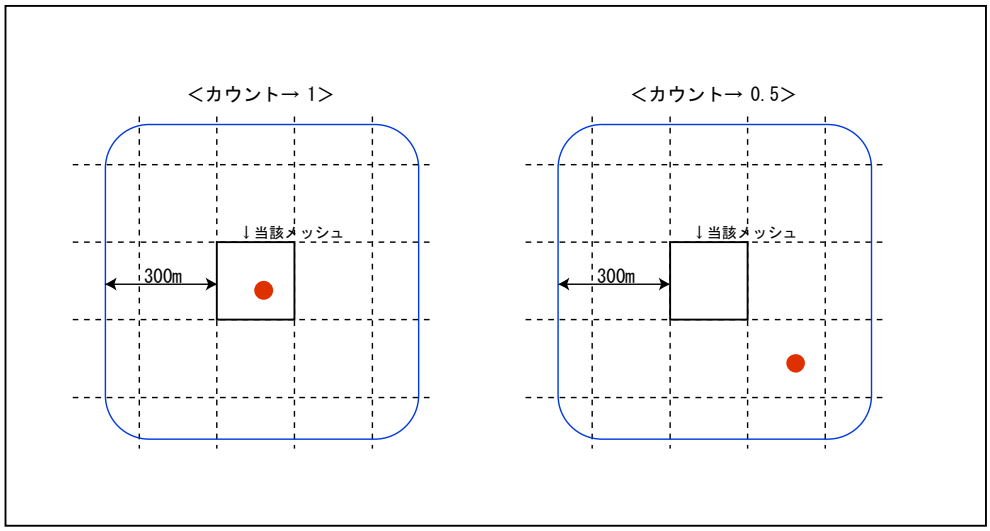


図3　生活支援施設のカウント方法

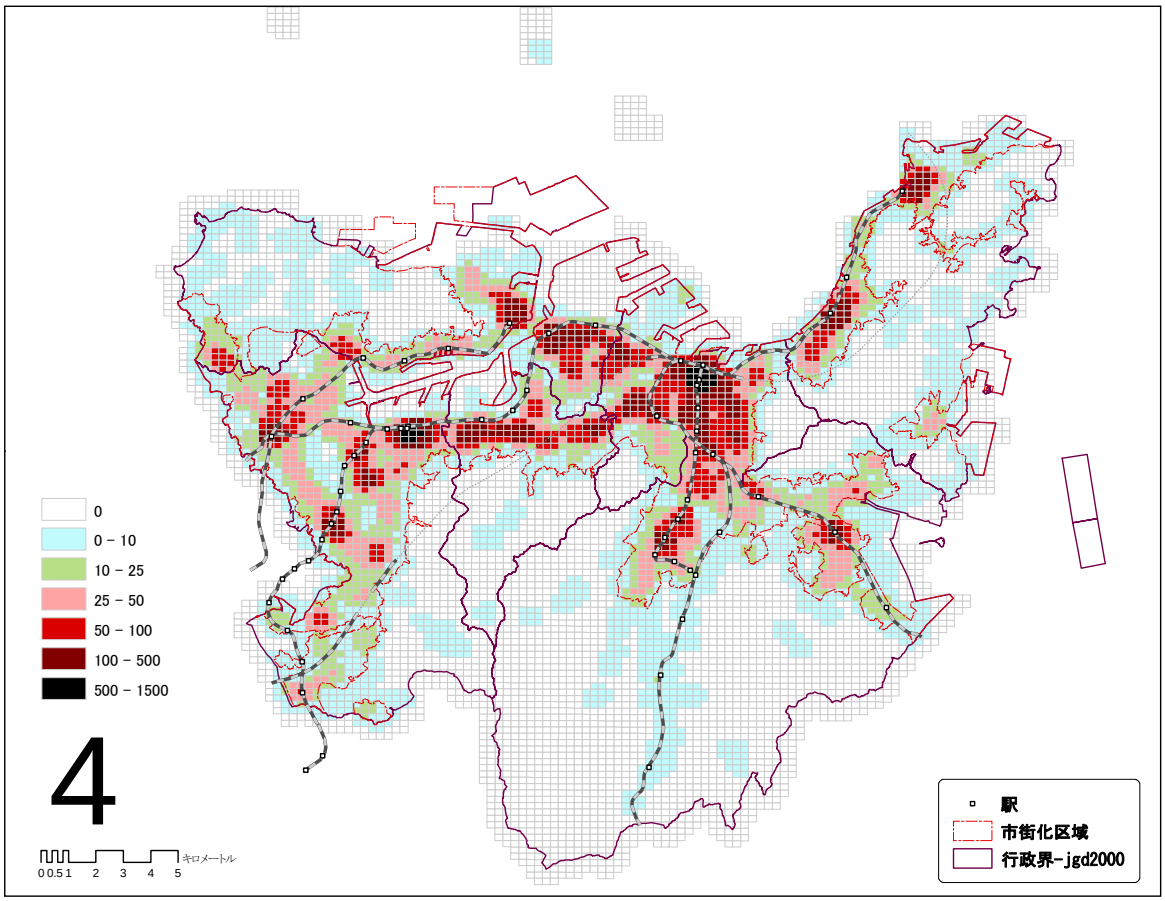


図4　生活支援施設の集積状況

2. 公共交通の利便性

市民生活を考える際、どのような場所に住んでいるかによって、暮らしやすさやライフスタイルは大きく異なる可能性がある。北九州市は山と海に挟まれ平野部に広がりが少ないという特徴的な地形のため、斜面地で生活している人々も少なくない。また、今後ますます少子高齢化が進むことが予想されるため、コンパクトな都市の形成とともに、それを支える公共交通網の充実が、市民生活の質の向上のために強く求められる。

以上を踏まえ、ここでは、250m メッシュを分析単位として、標高値と公共交通機関へのアクセス距離を用いて、公共交通の利便性を４段階（利便性高、利便性中、利便性低、空白地帯）に判別し、その分布状況から北九州市内における公共交通環境に関する現状把握を試みた。なお、対象とした公共交通機関へのアクセスポイントは、ＪＲの 28 駅、モノレールの 11 駅、筑豊電鉄の 19 駅、西鉄バスの 1,131 停留所、市営バスの 354 停留所である。図５に公共交通の利便性の判別基準、図６に運行本数別のバス停分布状況、図７に 250m メッシュごとの判別結果を示す。

1)「利便性高」の地区について

主に軌道系の駅周辺地区が「利便性高」に分類されており、軌道系の駅が多い小倉都心部では、広範囲に渡って「利便性高」に分類された地区が見られる。また、軌道系の駅がない地区であっても、小倉から黒崎方面へと続く旧電車通り沿道地区、小倉から戸畑方面に延びる下到津・戸畑線沿道地区など、都市の骨格を形成するような幹線道路沿道地区において、「利便性高」に分類された地区が連続している。

一方、湯川・赤坂線の黒原～霧ヶ丘区間、国道 200 号の幸神～引野区間、国道 199 号の高浜～赤坂区間など、郊外の幹線沿道においても、「利便性高」の地区が連続している。

2)「利便性中」の地区について

基本的には、「利便性高」に分類された地区を取り囲むような地区が、「利便性中」に分類されており、そのほとんどは市街化区域内に分布している。「利便性中」に分類された地区は、市街化区域内では比較的連続的に分布しているが、市街化調整区域内では、バス停間隔の長さなどが要因となり、散在する傾向が見られた。

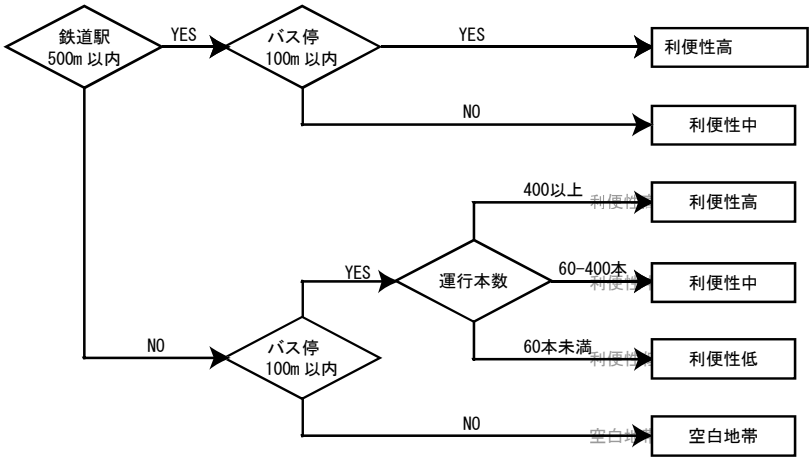
3)「利便性低」及び「空白地帯」の地区について

これらのタイプは、市街化調整区域もしくはそれに隣接する地区に多く見られた。一方、市街化区域内でこれらのタイプに分類された地区を見てみると、その多くが、いわゆる斜面地や山の麓、高台などであることが分かった。

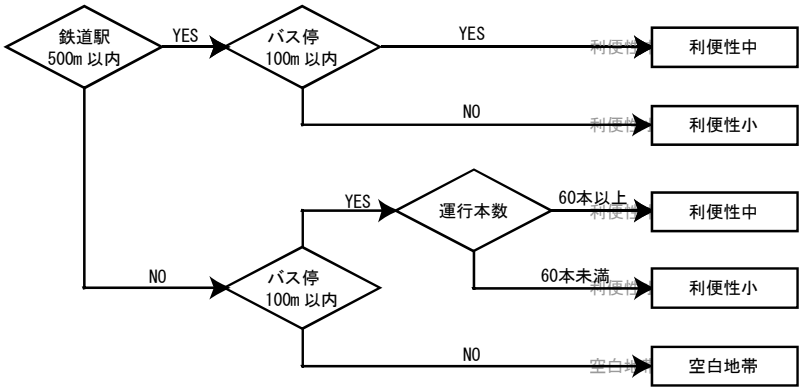
また、小倉北区の大畠、小倉南区の守恒～羽山町、蜷田若園、蒲生、山手～企救丘など、住宅地が広がっているような地域の一部のように、「利便性中」の地域に囲まれていながら、「空白地帯」に分類された地区が局所的に出現するケースもいくつか見られた。

■標高と公共交通の利便性による立地タイプ判定方法
　標高が50m未満である場合と50m以上である場合に分けて、公共交通の利便性による立地タイプの判定を行う。

●標高50m未満の場合



●標高50m以上の場合



※図中に示している鉄道駅やバス停からの距離は、当該メッシュの外縁からの距離を指す。つまり、当該メッシュ内に駅やバス停がある場合、もしくは、メッシュの外縁から、指定された距離内にそれらがある場合に、「YES」と判断される。

図5　公共交通の利便性判別基準

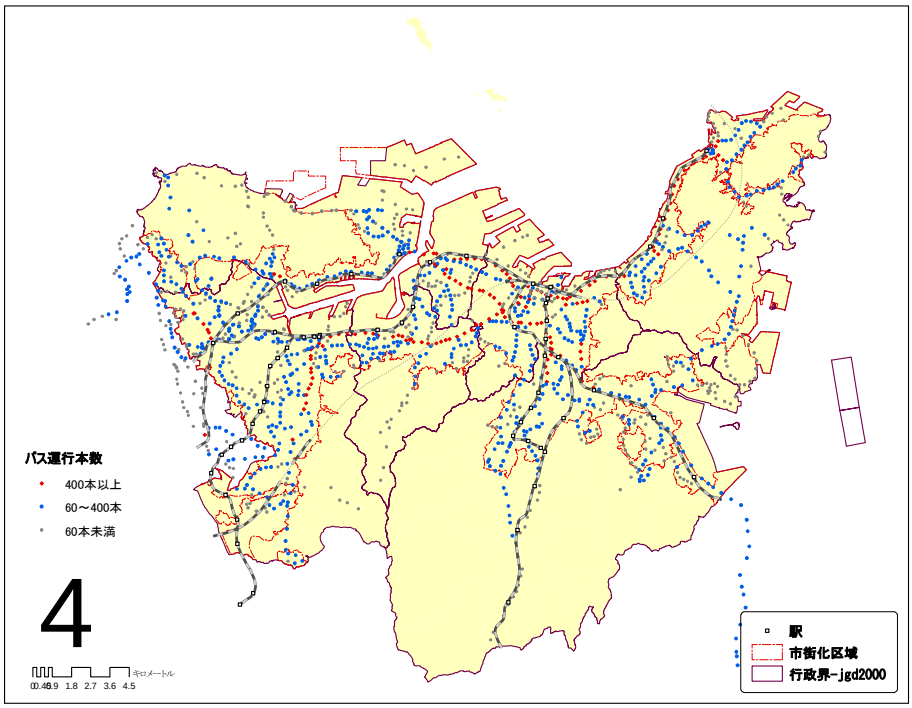


図6　運行本数別のバス停分布状況

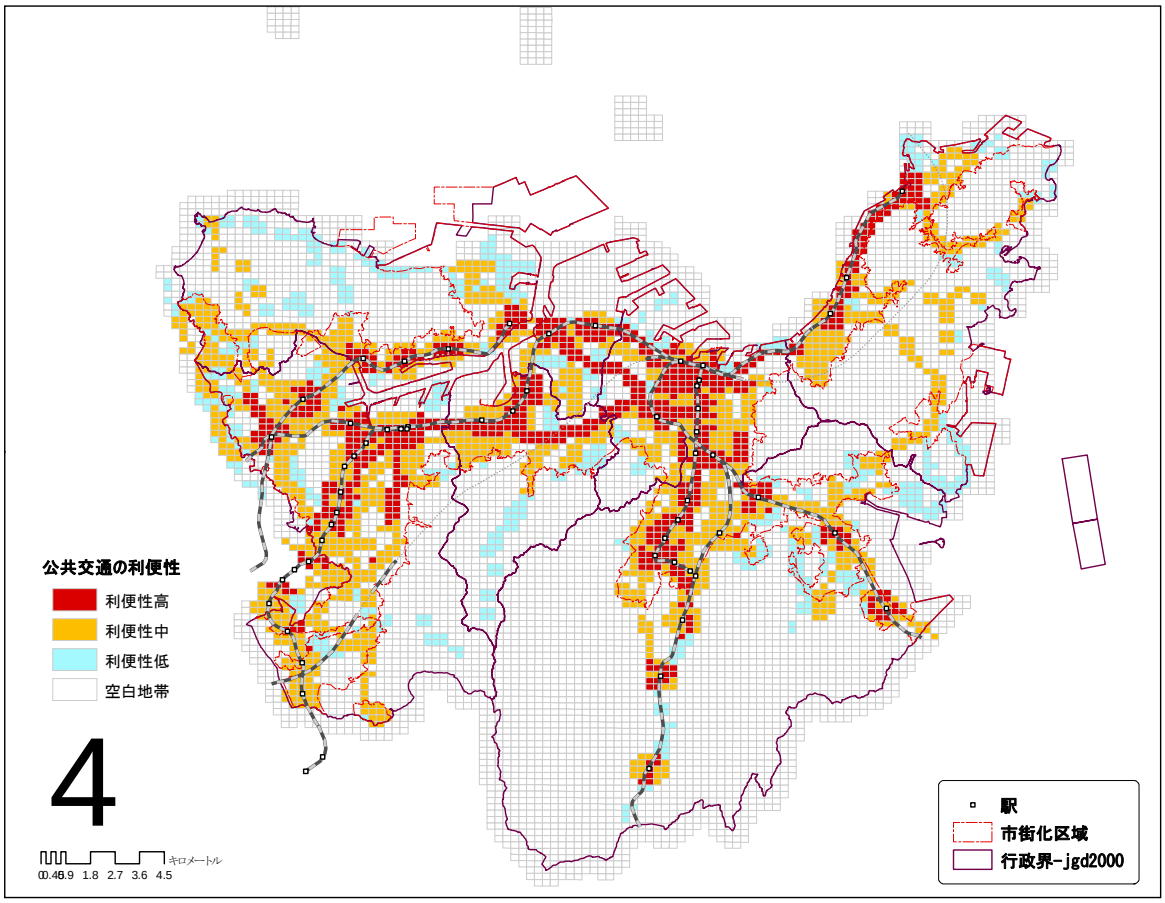


図7　公共交通の利便性判別結果

３．市域の類型化

ここでは、上述の生活支援施設の集積状況及び公共交通の利便性に基づいて、市域を５つのタイプ（生活利便エリア、外縁居住エリア、独立生活エリア、集落型生活エリア、自然エリア）に類型化する。なお、類型化の際、公共交通の利便性については前節での分類結果をそのまま用い、生活支援施設の集積状況については、生活支援施設のカウント数をもとにして計算したメッシュごとの偏差値を用いるものとする。ただし、偏差値については、生活支援施設の立地がカウントされたメッシュのみを対象として計算する（カウントなしのメッシュは偏差値０とする）ものとする。市域類型結果を図８に示す。

1)「生活利便エリア」について

このタイプは、生活支援施設が集積（偏差値 50 以上）しており、かつ、公共交通の利便性が高い（「利便性高」もしくは「利便性中」）場所であり、市域全体の 11.1%を占めている。図８を見ても分かるように、その多くは都市計画マスタープランおいて「街なか」と定義された区域に含まれており、生活利便性の高い地域であるといえる。

2)「外縁居住エリア」について

このタイプは、生活支援施設の集積度は低い（偏差値 50 未満）が、公共交通の利便性が高い（「利便性高」もしくは「利便性中」）場所であり、市域全体の 14.5%を占めている。「生活利便エリア」を取り囲むようにして、主に市街化区域の外縁部に分布しており、郊外型住宅地が広がっているような地域である。

3)「独立型生活エリア」について

このタイプは、生活支援施設が集積（偏差値 50 以上）しているものの、公共交通の利便性が低い（「利便性低」もしくは「空白地帯」）場所である。市域全体の 1.9%を占める程度であるが､「生活利便エリア」が面的に広がっているところに点在しているケースが多く、その実態を見てみると、いわゆる斜面地住宅地が形成されているような地域が多い。

4)「集落型生活エリア」について

このタイプは、生活支援施設の集積度が低く（偏差値 50 未満）、かつ、公共交通の利便性が低い（「利便性低」もしくは「空白地帯」）場所のうち、居住地（2005 年国勢調査人口が１人以上）となっている場所であり、市域全体の 35.1%を占めている。臨海工業地帯である場合を除けば、そのほとんどが市街化調整区域内にあり、人口密度の低い集落のような地域であるといえる。

5)「自然エリア」について

このタイプは、生活支援施設の集積度が低く（偏差値 50 未満）、かつ、公共交通の利便性が低い（「利便性低」もしくは「空白地帯」）場所のうち、非居住地（2005 年国勢調査人口が０人）となっている場所であり、市域全体の 37.3%を占めている。大部分が市街化調整区域内の山間部にあり、自然が豊かな地域であるといえる。

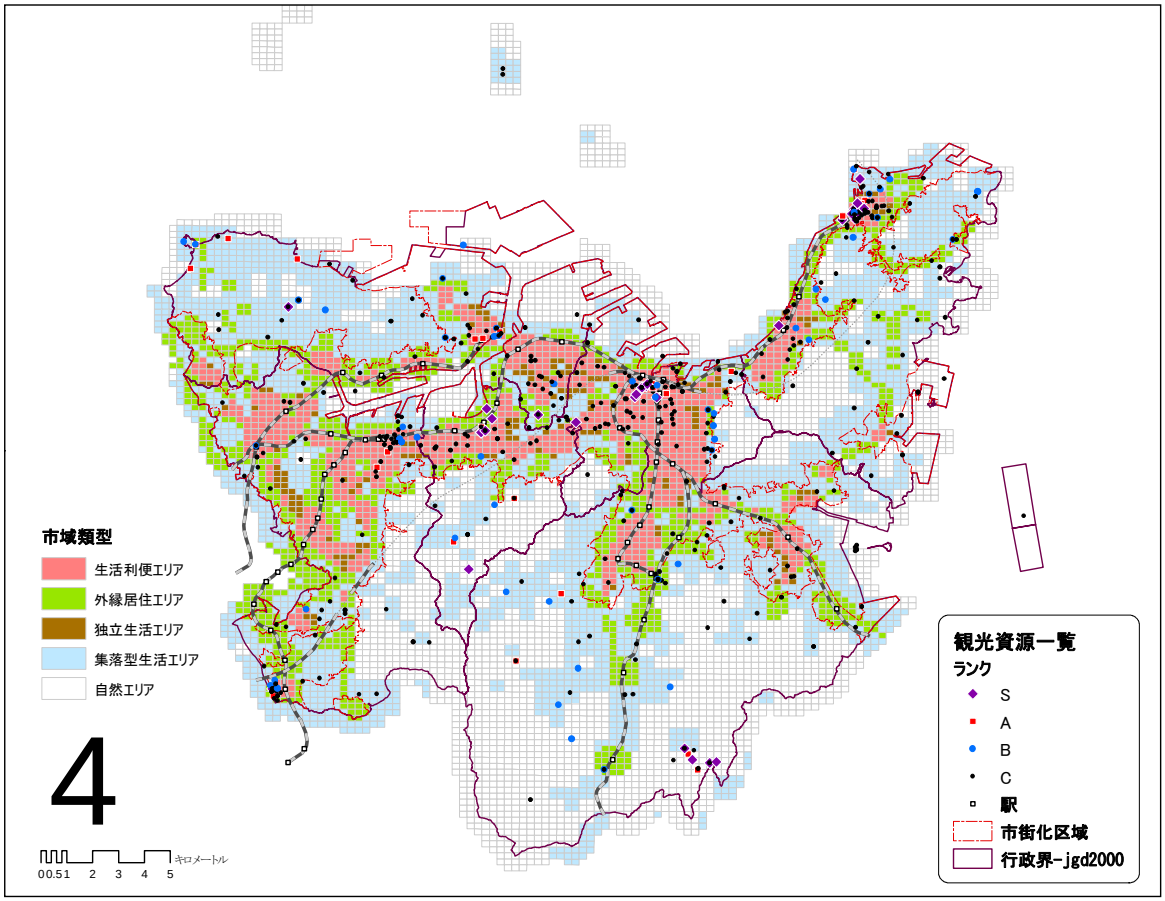


図8　市域の類型化の結果

Ⅳ. 市域類型別の観光資源分布特性

前章で分類した５つの市域類型別に観光資源を集計した結果、生活利便エリアに 257 件（42.9%）、外縁居住エリアに 83 件（13.9%）、独立型生活エリアに 33 件（5.5%）、集落型生活エリアに 169 件（28.2%）、自然エリアに 57 件（9.5%）が分布していることが分かった。以降、市域類型別のランキング別集計結果及び分野別集計結果をもとに、観光資源の分布特性の把握を試みる。表７～８に集計結果を示す。

1. 生活利便エリアにおける分布状況

生活利便エリアには、市域類型の中で最も多くの観光資源が分布している。その中でも、ランクＳの約７割（26 件）がこのタイプの市域に分布しており、そのほとんどが門司区もしくは小倉北区にあること、ランクＡやＢよりも件数が多いことが特徴的である。また、ランクＡとランクＣの観光資源もこのタイプの市域への分布が最も多く、それぞれ全体の約４割以上を占めている。

一方、分野別の件数としては、「歴史」（107 件）、「港町」（31 件）、「産業」（35 件）、「レジャー」（21 件）などが多く見られ、このタイプの市域に占める当該分野の観光資源の比率としては、「歴史」（51.6%）、「港町」（66.0%）、「産業」（44.9%）、「文芸」（45.2%）、「食」（60.0%）などが高くなっている。また、このタイプの市域の中で分布件数の多かった分野は、小倉北区の「歴史」（49 件）、八幡西区の「歴史」（35 件）、若松区の「港町」（23 件）などである。

2. 外縁居住エリアにおける分布状況

外縁居住エリアは、生活利便エリアを取り囲むように広がっていて、同エリアより面積が広いにも関わらず、観光資源の数は同エリアの１／３程度（83 件）であり、その８割以上がランクＣ（69 件）のものである。また、ランクＳの観光資源は、わずか３件であった。

一方、分野別に見た場合、他の市域よりも比較的件数の多さが目立ったものは見あたらなかった。このタイプの市域の中で分布件数の多かった分野としては、八幡西区の「歴史」（10 件）、小倉北区の「歴史」（８件）、門司区の「歴史」（７件）、小倉南区の「祭り」（７件）などが挙げられる。

3. 独立型生活エリアにおける分布状況

独立型生活エリアは市域に占める割合がごく僅かであるため、観光資源の分布数（33 件）が最も少なく、ランクＳの観光資源が全く分布していなかった。

また、分野別でも目立った特徴は見られなかった。

4. 集落型生活エリアにおける分布状況

集落型生活エリアは、市域の約１／３を占めていることもあり、多くの観光資源の分布（169 件）が見られた。ランクＢの観光資源が他のタイプの市域と比べて最も多く分布（24 件）しており、全体の約４割を占めている。

一方、分野別の件数としては、「歴史」（45 件）、「産業」（20 件）、「自然」（20 件）、「レ

ジャー」(20 件)、「祭り」(20 件) などの分布が多く見られ、このタイプの市域に占める当該分野の観光資源の比率としては、「自然」(46.5%)、「レジャー」(35.7%)、「祭り」(36.4%) などが高くなっている。また、このタイプの市域の中で分布数が多かったのは、門司区の「歴史」(14 件) と「港町」(10 件)、八幡西区の「歴史」(13 件)、小倉南区の「祭り」(7 件)、若松区の「自然」(7 件) などである。

5. 自然エリアにおける分布状況

自然エリアは、市域に占める割合が最も高いが、観光資源の分布数 (57 件) は少ない。しかし、ランクＳのものが４件あり、ランクＢ以上の件数 (17 件) は、このエリアの観光資源の約３割を占めている。

一方、分野別の件数としては、「自然」(16 件) と「産業」(9 件) が多く、このタイプの市域に占める当該分野の観光資源の比率としては、「自然」(37.2%) が高くなっており、そのほとんどが小倉南区 (11 件) に分布している。

表7 市街地類型別観光資源集計結果(分野別)

	歴史	港町	産業	文芸	自然	動植物	レジャー	景観	祭り	交通	食	その他	計
生活利便エリア	107	31	35	19	4	1	21	6	15	3	12	3	257
門司区	10	23	11	4	0	0	3	0	0	3	3	0	57
小倉北区	49	0	8	8	2	1	12	1	6	0	4	2	93
小倉南区	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	4
若松区	2	8	1	3	0	0	0	0	2	0	0	0	16
八幡東区	5	0	9	3	1	0	2	1	1	0	1	1	24
八幡西区	35	0	4	0	0	0	3	3	4	0	3	0	52
戸畑区	5	0	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	11
外縁居住エリア	35	4	9	3	3	2	9	5	11	0	1	1	83
門司区	7	2	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	14
小倉北区	8	0	4	1	0	0	0	1	0	0	0	0	14
小倉南区	5	0	0	0	1	0	3	3	7	0	0	0	19
若松区	2	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	7
八幡東区	3	0	3	0	0	0	2	0	1	0	0	1	10
八幡西区	10	0	0	0	0	1	2	0	2	0	0	0	15
戸畑区	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	4
独立型生活エリア	16	1	5	5	0	0	2	0	4	0	0	0	33
門司区	6	0	0	4	0	0	0	0	2	0	0	0	12
小倉北区	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
小倉南区	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	5
若松区	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
八幡東区	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
八幡西区	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
戸畑区	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
集落型生活エリア	45	11	20	10	20	5	20	12	20	0	5	1	169
門司区	14	10	4	1	3	2	4	1	1	0	0	0	40
小倉北区	6	1	2	3	1	0	2	2	2	0	0	0	19
小倉南区	7	0	6	0	5	1	3	4	7	0	3	0	36
若松区	5	0	3	2	7	1	3	1	6	0	1	1	30
八幡東区	0	0	0	3	2	0	4	1	1	0	0	0	11
八幡西区	13	0	4	0	1	1	2	1	3	0	1	0	26
戸畑区	0	0	1	1	1	0	2	2	0	0	0	0	7
自然エリア	4	0	9	5	16	6	4	4	5	0	2	2	57
門司区	3	0	3	0	2	0	1	1	1	0	0	1	12
小倉北区	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
小倉南区	0	0	0	2	11	5	1	1	4	0	1	0	25
若松区	0	0	3	0	1	1	1	0	0	0	1	1	8
八幡東区	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
八幡西区	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3
戸畑区	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	207	47	78	42	43	14	56	27	55	3	20	7	599

表8　市街地類型別観光資源集計結果（ランク別）

	ランクS	ランクA	ランクB	ランクC	計
生活利便エリア	26	13	16	202	257
門司区	13	4	2	38	57
小倉北区	9	3	3	78	93
小倉南区	0	0	0	4	4
若松区	0	3	3	10	16
八幡東区	4	0	1	19	24
八幡西区	0	3	7	42	52
戸畑区	0	0	0	11	11
外縁居住エリア	3	2	9	69	83
門司区	0	0	1	13	14
小倉北区	0	0	2	12	14
小倉南区	0	0	3	16	19
若松区	0	1	1	5	7
八幡東区	1	1	1	7	10
八幡西区	1	0	1	13	15
戸畑区	1	0	0	3	4
独立型生活エリア	0	1	5	27	33
門司区	0	0	2	10	12
小倉北区	0	0	0	6	6
小倉南区	0	0	0	5	5
若松区	0	1	0	0	1
八幡東区	0	0	0	1	1
八幡西区	0	0	2	2	4
戸畑区	0	0	1	3	4
集落型生活エリア	3	10	24	132	169
門司区	1	5	10	24	40
小倉北区	0	1	3	15	19
小倉南区	1	1	4	30	36
若松区	1	2	5	22	30
八幡東区	0	1	1	9	11
八幡西区	0	0	1	25	26
戸畑区	0	0	0	7	7
自然エリア	4	5	8	40	57
門司区	0	0	0	12	12
小倉北区	0	0	1	3	4
小倉南区	3	3	3	16	25
若松区	0	1	3	4	8
八幡東区	1	1	1	1	4
八幡西区	0	0	0	3	3
戸畑区	0	0	0	1	1
総計	36	31	62	470	599

Ⅴ. 集客力向上に向けて

以上の分析結果から、本市の集客力向上を図るための基本的な考え方についてまとめてみる。

パンフレット等によって情報発信されている観光資源の集積状況から判断すると、観光拠点としてのポテンシャルが高いのは、門司港地区、小倉都心地区、黒崎副都心地区、木屋瀬地区、若松地区、東田地区、平尾台地区の７地区だと考えられる。そして、それら７地区の中でも、生活利便性の高い地域が大部分を占めている、門司港地区、小倉都心地区、黒崎副都心地区、若松地区の４地区は、広い意味での集客拠点と捉えることができる。さらに、Ｓランクの観光資源の分布が多かった門司港地区と小倉都心地区は、集客拠点の中でも中心的な役割を担っていると考えられ、拠点を階層的に捉えることができたといえる。

本市の集客力向上を図るためには、まず、これら拠点的な役割を果たす各地区において、積極的な情報発信や地域内連携など、重点的に取り組みを進め、さらに、拠点間では関連する分野の観光資源に関するストーリーを組み立てるなどして連携を図っていくと効果的だと考えられる。その一方では、街の魅力の一つの目安ともなる生活利便性の維持にも努めなければならない。また、観光資源だけがメインとなっている拠点の場合には、周辺地区との連携によって他の要素を付加することで、魅力度が高まると考えられる。

拠点別でいえば、門司港地区では、集計結果からも分かったように、歴史や港町といったイメージをこれまで通り強調しつつ、隣接する地元商店街との連携強化を図ることで、今以上に集客力を発揮することが期待される。

小倉都心地区では、「歴史」や「産業」といった要素を、これまでの取り組みによる成果とうまく結びつけてアピールしていくことが求められる。そして、都市の玄関口であり、都市の顔であるため、良好なイメージ形成が重要となり、来街者に対する街としてのホスピタリティなども他の地区以上に強く求められる。

黒崎地区では、副都心機能の維持・向上が特に重要となるが、長崎街道に関する歴史的要素を積極的に打ち出すことや、それを通じて木屋瀬地区や小倉都心地区とも連携した取り組みを行うことが求められる。

若松地区では、若松バンドをはじめとする港町のイメージを引き続き強調し、石炭産業などに由来する産業遺産等も合わせてアピールしていくこと、そして何よりも、これ以上活力を低下させないために都市的機能を何らかの形で維持することが求められる。

以上、拠点ごとに取り組みの方向性は異なるが、それぞれの拠点的な地区が独自性を高めた上で、拠点間の連携強化を図っていくことが、今後は重要となる。

参考文献

1） 北九州市観光課「北九州市観光案内パンフレット」
2） 北九州市観光協会「北九州市観光ガイドブック」
3） 北九州市広報室（2007）「北九州市市政概要 2007」
4） 北九州市観光課（1994）「北九州市レジャーガイド」
5） 北九州市観光課（2007）「たびなび北九州市観光特選ロードマップ」
6） 北九州青年会議所道紡ぎ推進室（2006）「北九州市ウォーキングガイドブック」

7) 北九州市観光協会（2003)「観光指南書」
8) 北九州市観光課「産業観光」
9) 北九州市観光課「北九州市修学旅行体験学習プログラムガイドブック」
10) 北九州市農林水産部「北九州食の歳時記」
11) 北九州市観光協会「グルメ＆ナイトマップ」
12) 北九州市観光協会（2007)「門司港レトロガイドマップ」
13) 門司港駅観光案内所（2007)「門司港レトロ散策マップ」
14) 門司区役所まちづくり推進課（2006)「浪漫の旅・門司堪能ガイドマップ」
15) 関門海峡観光推進協議会（2007)「海峡ウォーカー」
16) 門司区役所まちづくり推進課（2001)「門司タウンガイドブック」
17) 小倉北区役所まちづくり推進課「テクテク史跡めぐり」
18) 北九州市観光課「小倉城下町散策ガイドマップ」
19) 小倉北区役所まちづくり推進課「足立山麓散策マップ」
20) 小倉南区役所まちづくり推進課「小倉南まるごとガイドブック」
21) 平尾台観光振興協議会「平尾台観光マップ」
22) 中谷ウォーキング実行委員会「小倉南区中谷地区ふるさとウォーキングマップ」
23) 若松区役所まちづくり推進課（2006)「若松ガイドブック」
24) 若松南海岸通りの歴史と景観を考える会「若松バンド」
25) 八幡東区役所まちづくり推進課（2006)「皿倉山展望マップ」
26) 北九州市建設局管理課「道原・河内サイクリングロード」
27) 河内湯の里振興会「河内散策マップ」
28) 八幡西区役所まちづくり推進課「長崎街道を歩く」
29) 北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館「長崎街道木屋瀬宿」
30) 国土交通省北九州国道事務所交通対策課（2006)「黒崎歩きやすさマップ（歴史編)」
31) 国土交通省北九州国道事務所交通対策課（2006)「黒崎歩きやすさマップ（現代編)」
32) 八幡西区役所まちづくり推進課「八幡西区南部おでかけマップ」
33) 八幡西区役所まちづくり推進課「香月の郷・藤マップ」
34) 八幡西区役所まちづくり推進課「折尾史跡めぐり」
35) 戸畑区役所まちづくり推進課　「とばたマップ」
36) ㈱角川書店（2006)「北九州市 Walker」
37) JTB パブリッシング（2007)「るるぶ情報版福岡」
38) 昭文社（2007)「まっぷるマガジン福岡　門司港レトロ・大宰府」
39) ゼンリン（2006)「美味本」
40) 佐々木一成（2008)「観光振興と魅力あるまちづくり　地域ツーリズムの展望」，学芸出版社
41) 片岡寛之（2007)「集客力関連指標の分析による全国主要都市の類型化」、2006 年度都市計画プロジェクト報告書
※他 43 施設のパンフレット